

平成25年ホヤ類調査結果速報 No. 2

平成25年8月22日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

8月19日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数が増加しました（表1、図3上）。7月下旬以降、付着の本格化が始まったと考えられます。付着しているヨーロッパザラボヤの平均体長は5.2mmで、肉眼で見える個体も目立ち始めました（図1、図2）。
- 付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり47.7個体で、過去3ヶ年の同時期と比較してやや多い結果です（表1、図3上）。
- ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生の出現は継続しており、引き続き、耳吊りホタテガイおよび漁具に新たな個体が付着する可能性があります（図4-2）。
- 平成22年のように付着個体数の増加が9月以降も継続すると冬季の付着重量の急増に繋がると考えられます（図3）。一方、平成23、24年のように個体数の増加が8月で終息した場合、冬季の付着重量の増加は緩やかとなることが見込まれます（図3）。今後の水産試験場や水産技術普及指導所の調査結果に注意してください。

図1 耳吊ホタテガイ（左）とヨーロッパザラボヤ（右）平成25年8月19日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・馬場
TEL：0138-57-6074 FAX：0138-57-5991

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：8月19日、調査場所：八雲沖 水深約30m、上中下層 各5枚]

8月19日に実施した八雲調査定点（水深約30m）の垂下養殖ホタテガイの付着生物調査結果です。ホタテガイを上層、中層、下層ごとに5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を採取しました。ヨーロッパザラボヤの平均個体数はホタテガイ1枚あたり47.7個体、平均サイズは5.2mmです。付着重量は8.8gとまだ少ないですが、今後、付着個体の成長にともない、増加していくと考えられます。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：平成25年8月19日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	8.5g	9.9g	7.9g	8.8g
ヨーロッパザラボヤ	1.5g	4.4g	3.2g	3.0g
その他	6.9g	5.5g	4.7g	5.7g
ヨーロッパザラボヤ個体数	12.4個体	42.4個体	88.2個体	47.7個体
平成24年8月(H24.8.14)の個体数	14.4個体	17.2個体	34.2個体	21.9個体
平成23年8月(H23.8.29)の個体数	24.4個体	33.6個体	59.6個体	39.2個体
平成22年8月(H22.8.24)の個体数	20.6個体	34.4個体	27.2個体	27.4個体

図2.ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成25年8月19日）

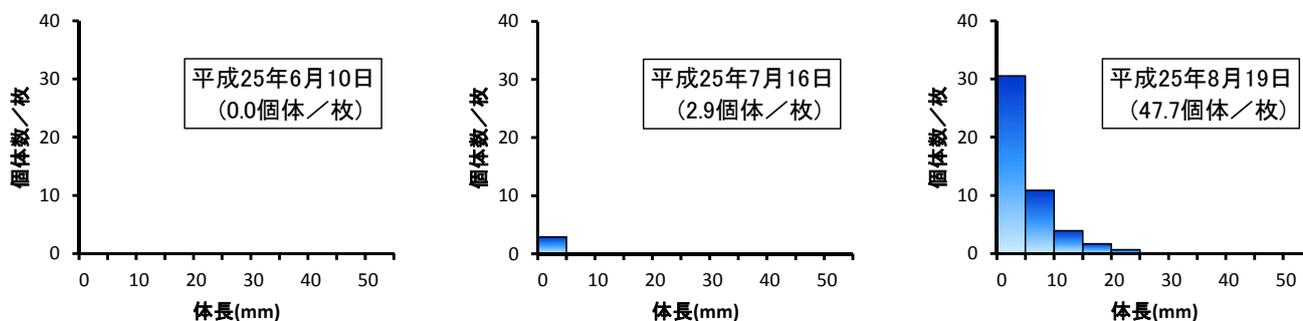
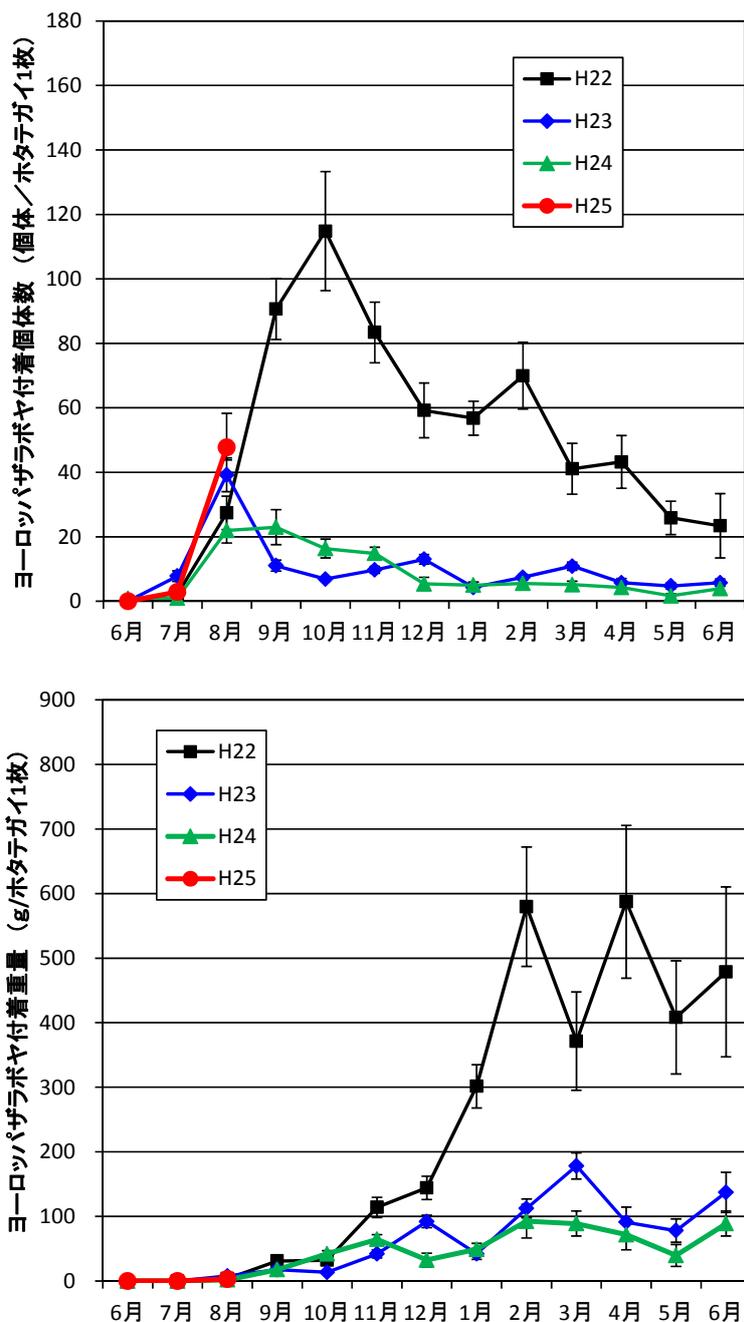


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。H22～H24 はいずれも7月頃にホタテガイへの付着が始まっています。H22は個体数の増加が10月頃まで続き、ホタテガイ1枚あたり100個体を超えました。H23、H24の個体数の増加は8月頃に終息し、ホタテガイ1枚あたりの付着個体数は最大20～40個体でした。その結果、H22は冬季（収穫期）に付着重量が急増したのに対して、H23～H24の付着重量の増加は緩やかでした。H25も付着は7月から始まっており、今後、H22のように9月以降も個体数の増加が続くかどうか、特に注意する必要があります。

2：浮遊幼生調査結果

2-1. 八雲地区（八雲漁港沖合）調査結果

〔調査月日：平成 25 年 8 月 19 日、調査場所：八雲沖水深 17m、水深 32m〕

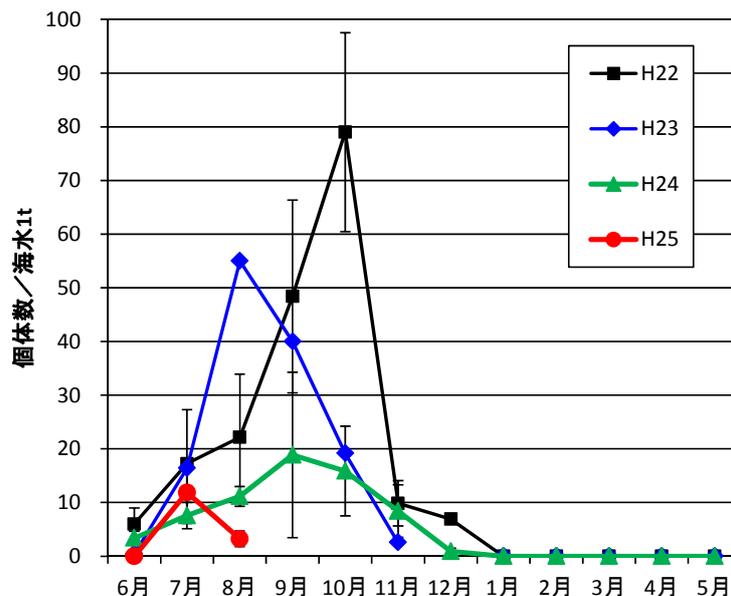
ヨーロッパザラボヤの幼生(図 4-1)は2地点の平均で海水 1t あたり 3.3 個体でした(図 4-2)。先月(11.9 個体)と比較して減少しましたが、調査前日に記録的な降雨があり、大量の河川水が流入している中での調査であったため、その影響が出ている可能性もあります。

図 4-1.ヨーロッパザラボヤ幼生の形態



水温 20℃の条件で、ヨーロッパザラボヤの卵は受精後、約 14 時間で孵化します。図 4-1 は 20℃条件で受精から 22 時間後のヨーロッパザラボヤの浮遊幼生です。ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生期間は短く、室内実験では水温 20℃の条件で、孵化から 6 時間後(受精から 20 時間後)には、基質に付着して変態を始める個体が見られます。

図 4-2.ホヤ幼生出現状況の経年比較（八雲地区）



(参考) 噴火湾の「ザラボヤ」について

平成 20 年以降、噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着しているホヤ(通称「ザラボヤ」)は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが判明しています。ヨーロッパザラボヤの特徴や在来種との識別方法等については、北海道立総合研究機構水産研究本部 HP (<http://www.fishexp.hro.or.jp/>) に公表されている以下の資料を参考としてください。

- ・金森誠：噴火湾のザラボヤの正体—外来種ヨーロッパザラボヤ—(試験研究は今 No.707)
- ・金森誠：外来種ヨーロッパザラボヤの道内の分布について(試験研究は今 No.731)
- ・金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭：外来種ヨーロッパザラボヤの生物学的特徴および簡易識別、同定について(北海道水産試験場研究報告 81：151-156)